

行政評価（外部評価）結果総括表

< 平成 2 0 年度実施計画分 >

平成 2 1 年 5 月

行政評価（外部評価）総括表について

1. 評価の方法

川西町まちづくり委員会条例に基づいて、町長が委嘱した「まちづくり委員」による評価。

全体会・・・・・・・・・・・・・1回

代表者会議・・・・・・・・・・・・・1回

第1小委員会・・・・・・・・・・・・・3回

第2小委員会・・・・・・・・・・・・・6回

以上の会議を開催し、評価作業を行い、評価結果を町長に報告。

2. 総括表の見方

節・・・・・・・・川西町のまちづくりの指針である「第4次川西町総合計画」の中で、まちづくりの4つの柱（分野別目標）となっているもの。

第1節「産業を創造しゆたかで元気なまちをつくる」

第2節「みんなで支えあい安心して暮らせるまちをつくる」

第3節「住み良い環境を創り次世代につなげるまちをつくる」

第4節「人と地域が共にかがやくまちをつくる」

項・・・・・・・・・・4つの柱（分野別目標）に次ぐまちづくりの目標。（項の数30）

【表の左側から】

政策・・・・・・・・項を達成するための具体的な目標。（政策数92）

評価結果・・・・・・・・政策の評価結果「順調」「概ね順調」「課題あり」の3段階の評価。

評価の理由・・・・・・・・政策評価3段階評価の理由を明記。

施策・・・・・・・・政策を達成するためのより具体的な目標。（施策数222）

評価点数・・・・・・・・施策の評価を「施策の方向性」「町民ニーズの反映度」「適合性」「効率性」の4つの視点で点数化したもの。

評価の理由・・・・・・・・施策評価点数化したものの理由を明記。

個別意見・・・・・・・・評価に当たって、まちづくり委員からの個別の意見を明記。

行政評価（外部評価）結果総括表（平成20年度実施計画）

第1節 産業を創造しゆたかで元気なまちをつくる

第1項 川西ブランドの創造

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
産学公による調査、研究機関の創設と川西ブランドの創造	概ね順調	平成21年度達成に向けて進捗度を高める必要がある。	(仮)川西ブランド研究所の創設	75.0	ブランドとは、作物を育てる土作りから製品になるまでの物語性を付加し生まれるものであり、単にスーパーに流すだけではいけない。今後のブランドの確立に期待する。	研究所の早期創設を実施すべきである。
			資源、情報の活用と発信	62.5	インターネットの持つ即時性を利用するとともに、川西ファンの拡大に向けた情報発信方法を構築すべきである。	ファン特典等の改善が必要と考える。
			産業間のネットワークの構築	56.3	産業面の連携については、有効な手段であるが、最初が大事であるため、状況をよく話し合い連携をすべきである。	更なる行動（アクション）を期待する。
			地場産品の開発と流通の促進	62.5	これまでの取組みにより、地場産品の価値が見直されつつある。今後の流通ルートの確立が重要と考える。	常に、食の再発見の視点から対応すべきと考える。
新たな産業づくりの促進	課題あり	まだ施策の結果が反映されていない。施策の事務事業を進め、早期に施策反映されたい。具体的プログラムを再考する必要がある。	コミュニティビジネスの創設	68.8	ビジネス化に向けた企画・内容を再検討し事務事業を十分に整理すべきである。	
			新エネルギー利活用の調査、研究	68.8	事務事業の検証を進め、調査・研究を推進すべきと考える。	
			起業の育成、支援	56.3	具体策を明確にすべきである。	

第2項 持続し発展する農業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
多様な担い手の育成	概ね順調	支援ということの本質を考え、施策に反映してほしい。	新たな担い手の育成、支援	81.3	新規就農者への、更なる支援策が必要である。	
			経営形態に合わせた担い手の育成	81.3	認定農業者の数を担い手としているが、国と乖離している現状について町としての考えを施策としてほしい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			支援体制の充実	56.3	時代に合わせた支援体制を考える必要がある。施策推進のための、事務事業を具体化すべきである。	
産学公連携による支援拠点づくりの促進	課題あり	施策の方向性・ニーズ共に合致しているが、施策の調査・研究の結果が見えてきていない、将来像を明確にし実現のための具体策・行動が必要である。	置賜農業高等学校との連携強化と機能充実の促進	68.8	産学公連携による将来像を明確にすべきであり、協働で取り組めるような環境整備が必要である。	
地域営農システムの確立	概ね順調	政策推進を図るため、具体的取り組みの一層の進展を望む。	地域営農組織の育成、法人化の推進	81.3	更なる前進を期待する。	法人の育成は必ず求められていたが、法人決算の多くが赤字決算となっており、町民ニーズが変わってきている。
			農地の集積化	81.3	課題解決のための具体的手法が必要であると考ええる。	
競争力の高い水田農業の確立	概ね順調	川西の水田農業の生き残りをかけて、今後も積極的な取組みを期待する。	環境保全型農業の推進	81.3	環境保全型農業に対する取組みは、今後更に強化すべきと考ええる。	時代の要請であり、更なる前進に期待する。
			付加価値の高い売れる米作りの推進	81.3	環境保全型農業と併せ、消費者の視点で米作りを推進すべきである。	
高収益型周年農業の推進	概ね順調	産地化、ブランド化を一層進め、さらなる施策展開が望まれる。	戦略的作物による産地づくりの推進	81.3	産地形成に向けた取り組み強化が必要である。	
			畜産の振興	93.8	さらなる前進を期待する。	
			林産物の振興	68.8	事務事業の設定が不十分であり、長期的な戦略が必要である。	
信頼をつくる生産流通体制の確立	概ね順調	さらなる生産体制の確立を求める。	食の安全の確立	81.3	トレーサビリティの確立を図る取り組み強化が必要である。	流通の分野は区別してとらえたほうがよい。
食生活、食文化を通じた豊かな生活の推進	概ね順調	各課連携による総合推進体制の構築をすべきである。	食農教育の推進	75.0	教育・福祉連携の食文化への取り組みが必要である。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
農村環境、生産基盤の整備と保全	概ね順調	今後も「農村社会」の課題と連動した政策、施策に期待する。	生産基盤の整備	81.3	各事業とも概ね順調に進捗していると考える。今後とも国、県との連携を図りながら、推進すべきである。	
			主体的な維持管理活動の推進	75.0	農地・水・環境保全向上活動支援事業の終了後も主体的な活動が継続するよう指導すべきである。	
森林の保全と緑化の推進	課題あり	早期の施策構成の見直しが必要である。	森林保全、緑化推進	68.8	事務事業の具体的検討が必要である。	

第3項 販わいのある商業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
人材育成と組織づくり支援	課題あり	的確な施策を講じる必要がある。	後継者、人材の育成支援	68.8	優良従業員の表彰制度の廃止。総合的な対策が必要である。	
			組織づくり支援	68.8	施策に対する事務事業の体系化を明確にする必要がある。	
商業経営への指導支援	概ね順調	目的は理解できるが、商業者が必要としている支援なのか、効果が見えない。	経営指導の強化	68.8	目的は理解できるが、商業者が必要としている支援なのか、効果が見えない。	
中心市街地の販わい作り支援	概ね順調	中心市街地の支援は、人づくりも大切であり、ハードソフト両面の支援が必要である。	魅力ある店舗づくり支援	81.3	施策にあった新たな事業展開を期待する。	空き店舗の利活用は、斬新な企画であるが、今後地道な取り組みと、よりきめ細かな支援が必要である。
			きれいな街づくり支援	75.0	プランター設置で美しさを表現するだけでなく、地元住民、事業主の共通認識のもと、「安全、安心」も一緒に取り組むべきである。	
地場産品の活用	概ね順調	生産者、加工業者、行政の三位一体となった施策の推進が必要である。	商品開発への支援	81.3	小規模事業者新事業全国展開支援事業による商品開発は評価する。今後更なる前進に期待する。	
			地場産品の販路拡大	62.5	生産者、加工業者、行政の3者の協力体制のもと、販路拡大等更なる前進に期待する。	川西独自の地場産品として販路拡大すべきである。

第4項 ものづくりを育む工業の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
企業誘致の推進	課題あり	施策の必要性は理解できるが、施策内容に財政的制限があるため有効的に進んでいない。課題解決に向けた抜本的な対応が必要である。	誘致促進に向けた環境づくり	68.8	進出企業が少なく中で、町としての企業誘致に対する考え方を再構築する必要がある。	
			融資、奨励金等の支援	68.8	財政的支援策について検証し、あり方を再整理する必要がある。	
企業の経営安定支援	課題あり	早期に施策構成及び内容を再検討する必要がある。	企業間の交流促進	68.8	具体的手法について再検討する必要がある。	
			各種制度を活用した経営支援	81.3	制度内容の更なる検討を図られたい。	
起業支援	課題あり	町民への理解・PR不足なのか形になっていない。	起業、開発支援	62.5	制度の更なる周知（PR）を行い、起業・開発を支援すべきである。	
			勤労者の福祉向上支援	0.0	雇用対策活動支援（政策）に組み込まれる施策と考えられる。	
雇用対策活動支援	課題あり	施策構成及び事務事業の見直し検討が必要である。	勤労者の福祉向上支援	59.4	具体的事務事業を検証する必要がある。	

第5項 資源活かした観光の振興

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
ダリヤの高付加価値化とブランド力の向上	概ね順調	政策を推進するため、一層の発展的取組みに期待する。	ダリヤ栽培管理体制の充実	81.3	品種改良により、毎年新種のダリヤが誕生しているが、ブランド化に向け、管理体制に考慮が必要である。	
			ダリヤの普及促進	75.0	切花としてのダリヤも定着してきており、普及が図られている。品質向上支援等、更なる前進に期待する。	「QRコード」等を使用し、ダリヤの情報を即時に確認できるシステムを確立すべきである。
			ダリヤの産業化の促進	75.0	第1節第1項（川西ブランドの創造）との関連強化で更なる前進に期待する。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域資源の活用と交流の促進	課題あり	具体的な事務事業が進展していない。具体的取り組みを総合的に構築し、推進していく必要がある。	ふれあいの丘の充実	68.8	多面的機能を明確にし、具体的事業の整理を進めていく必要がある。	
			地域資源のネットワーク化と活用	75.0	地域資源の再発見と有効活用に向けた全町的な取り組みを目指す必要がある。	
			グリーンツーリズムの推進	68.8	スティネットの構築に向けて具体的な検討が必要である。	
観光PR活動及び推進体制の充実	概ね順調	さらなる推進を期待する。	広域観光の推進	81.3	山形おきたま観光協議会と連携し、企画実現に向けた取り組みが必要である。	
			情報発信、イベントの充実	81.3	インターネット（ブログ）の充実ときめ細やかな情報発信が必要である。	
			推進体制の充実	68.8	ボランティアガイドの任命やふるさと交流大使の活用など体制の整備が急務であると考ええる。	

第2節 みんなで支えあい安心して暮らせるまちをつくる

第1項 子育て環境の充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
施設環境の充実	概ね順調	少子化の現状、地域特異性を十分に勘案し住民理解の得られる計画を提示する必要がある。	施設の整備と効率的な運営	81.3	要望状況等、現状を把握し保護者に理解される施設の運用、拡充に取り組まれない。	・幼児施設の再編計画に基づき実施されているが、「地元に残してほしい」という町民ニーズに対してどう対応するかが今後の課題である。再編後の新たな施設でのサービス内容や良くなる点をはっきり明示し、地域や保護者の理解を得る必要がある。また、サービスの内容をどう図るか庁内で十分議論し意思統一を図るべきである。
			保育サービスの充実	81.3	預かり保育のサービス時間帯の区分について、保護者が利用しやすいようニーズを踏まえた対応が必要で、今後とも継続的に取り組まれない。	・預かり保育の時間帯を延長したことは評価したい。ただ、夕方の時間帯について午後6時までとなると町外に通勤している保護者にとっては利用しづらいのではないかと。
子育て支援センター機能の充実	概ね順調	構成する施策は、各々有効であるがさらにニーズに対応出来るよう効率的な事業展開を図られたい。	相談体制、情報提供の充実	81.3	子育て支援センターの改善とセンター以外の仕組みについて検討を図られたい。	
			交流と遊びの場の提供	81.3	施策に対する事務事業を一層強化されたい。	
			地域子育て団体等との連携	81.3	育児サークルと支援センターとの連携により、支援の充実を図られたい。	
地域子育ての充実	概ね順調	施策の更なる推進を図るため、地域・利用者の意向再検討、地域・利用施設の連携強化を検討されたい。	子育てサークル、託児ボランティアの育成	81.3	施策の有効性を担保するため、事務事業を一層強化されたい。	
			ふれあいの場、遊びの場の空間づくり	81.3	学校の開放について、学校と保護者の責任分担を明確に整理されたい。	・放課後の取組みに対して、学校側が消極的であるように感じる。
			放課後児童の健全育成	75.0	地域においては実情に応じたサービス展開がなされている。一方ではサービスの足りない地域もあり、解消に向かう対策を講じられたい。	全小学校区での事業実施について改善を図られたい。

第2項 元気づくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
元気づくり活動の充実	概ね順調	関連する事業との連携、団体育成等課題が多く、町民ニーズに対応した施策・事務事業の精査、再構築を要すると考えられる。	健康体力づくりの推進	75.0	施策に対する事務事業の整理が不十分である。総合的に再構築されたい。	・町民の健康づくりが大切である。 ・昨年度指摘した内容について改善が図られていない。
			元気づくり団体の育成支援	68.8	若い子(世代)は食事のバランスが悪いように感じられる。民間、行政タイアップした事業を再構築されたい。	・町民の多くが参集する対応が必要である。 ・食育指導は幼・小・中・高一貫して必要と思われるが、事業として再構築が必要である。
健康づくりの推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、施策・事務事業を精査しより効率的、継続的な事業展開を図られたい。	指導、相談体制の充実	87.5	健康受診率の向上とフォローアップの充実を図るために、健康管理システムを整理されたい。	
			保健事業の推進	87.5	保健事業において対象者のニーズを把握するとともにフォローの充実を図られたい。	
生活習慣病予防と感染症予防の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで受診率の向上、指導の充実等、今後とも継続的な取り組みと効率的な運用を図られたい。	生活習慣病予防の推進	87.5	施策に対する事務事業の一層の強化を図られたい。	
			感染症予防の推進	81.3	施策に対する事務事業の一層の強化を図られたい。	

第3項 健康・医療・福祉・介護の連携

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
健康、医療、福祉、介護の連携強化とサービスの向上	課題あり	政策の根幹となる各施設の必要性を再検討し、抜本的且つ一体的な見直しが必要の課題と考えられる。	健康福祉センター機能の充実、整備	62.5	健康福祉センターとしての機能を発揮するために、何が必要なのか検討する必要がある。	・町独自の健康福祉センターがないのは、近隣市町村の中で川西町のみと思われるが、病院の古建物では十分な機能発揮ができないと思う。 ・現状は建物を建てられない状況にあるが、今後ともセンター機能は必要である。センターが役場内にあっても本来の健康と福祉を一体的にとらえた機能の充実は図れるものとする。また、理想的な健康福祉センター建設について計画から外すべきではない。
			地域包括支援センターの創設	75.0	センターの創設を受けて、今後の施策方向を明確化し、具体的な事務事業を設定されたい。	・健康管理の元締めの機構であるから、資格ある職員で対応すべき。

第4項 介護予防と支援体制の充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域包括支援体制の構築	概ね順調	政策推進を図るうえで、施策の構成を精査し今後とも継続的な取り組みが求められる。	地域包括支援センターの創設	81.3	施策方向を明確化し、具体的な事務事業を設定されたい。	
			介護予防の推進	87.5	施策展開を充実させ、要介護者の減少や抑制につながるよう取り組まれない。	
			継続的な介護支援	87.5	関係機関との連携体制の構築を図られたい。	
介護保険制度の適正な運用	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取り組みが求められる。	在宅介護サービスの充実	81.3	第4期介護保険事業計画に基づき、事務事業を再整理設定されたい。	・老老介護等問題も多くあり、それらを支援すべき対応が必要と思われる。
			施設介護サービスへの支援	81.3	第4期介護保険事業計画に基づき、事務事業を再整理設定されたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			家族介護者への支援	81.3	施策を構成する事務事業の再整理が必要である。また、町民ニーズはまだあるはずなので把握とともに事業化に取り組まれない。	・老老介護等問題も多くあり、それらを支援すべき対応が必要と思われる。 ・家族介護は精神的に重労働であり、無理心中事件なども起きている。1家族が孤立しないよう配慮されたい。

第5項 地域医療の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域医療環境の充実	概ね順調	政策推進を図る上で、川西診療所の存続を含む将来的プランを明確化する必要がある。	公立置賜総合病院との連携強化	81.3	施策に対する事務事業を一層強化されたい。	・待ち時間の短縮が重要である。
			川西診療所の機能充実	68.8	建物が老朽化し、維持管理経費がかかりすぎている。今後患者数が減少することが見込まれることから、あり方について検討されたい。 また、医療機関の正しい利用形態（一次、二次）を町民に認識されるような取組みを展開されたい。	・医師移動が激しいので、診察に行く患者が次第に減少している。町民が安心して診察できる医療機関とすべきであり、サテライトとしての機能をいかした診療所とすべきである。
			町内医療機関との連携	93.8	施策に対する事務事業を一層強化、工夫されたい。	
			医療給付の適正な運用	100.0	今後とも適正な制度の運用を図られたい。	

第6項 高齢者の社会参加の促進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高齢者が活躍できる場の創出	概ね順調	施策の内容として、既存事業（高齢者大学、老人クラブ活動、シルバー人材センター等）の見直し、再構築によって、政策目的に合致した実施内容とすることが必要である。	同世代、他世代間交流の場の創設	75.0	他世代との交流の場を創設する具体的事務事業を設定されたい。	
			学習機会の提供	75.0	施策に対する事務事業の再構築を図られたい。	
			主体的活動への支援	75.0	活動できる環境や支援のあり方を検討されたい。	
			就労機会の拡大	81.3	施策につながる事業の調査研究を図られたい。	

第7項 ノーマライゼーションの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
福祉相談機能の充実	概ね順調	関係機関、地域との連携の強化、事業の対象者の精査を行い、更なる充実を図られたい。	福祉相談窓口の充実	87.5	児童を取り巻く各機関団体との情報交流を図られたい。	
			いじめ、虐待防止ネットワークの整備	81.3	施策に対する事務事業の設定が不十分である。	
地域社会福祉の充実	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取り組みが求められる。	生活保護、母子家庭等支援	93.8	施策実現に向けた連携的な取り組みを図られたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			福祉関係団体との連携強化	87.5	施策実現に向けた事務事業の一層の充実を図りたい。	
			地域支援体制の充実	87.5	施策に対する事業や新たな団体等の設立に向けた支援策を図りたい。	
障がい者の生活支援サービスの充実	概ね順調	障がい者への住民理解の高揚のためこれまでの施策・事務事業に早急に検討を加え有効性を担保する事業展開を図る必要がある。	障がい者への住民理解の高揚	75.0	施策に対する具体的事務事業の設定が不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者には身体・知的・精神の3障害があるが、特に知的と精神については理解が深まっていない。違うものに対する違和感や知らない恐怖感などが見受けられる。共に理解しあうためには一緒に行動することからしか有り得ないのではないか。ポスターではなく共に行動できる事業（ボランティア清掃活動等）に取り組まれない。 障がい福祉計画策定等知り渡っていない。
			在宅生活支援の推進	81.3	在宅障がい者へのサービスの適正化、有効性を検証し、着実な事務事業の推進を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> 全町民が認識を深めることが大切。
自立支援、社会参加の促進及びバリアフリー化の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、バリアフリー化、支援の継続などさらなる事業展開が必要である。今後とも継続的な取り組みが求められる。	自立支援、社会参加の促進	87.5	自立支援、社会参加促進対策とは別にバリアフリー化の推進に係る施策の設定及び、個別の事務事業について設定されたい。	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の一員として満足できる設備の整備が必要である。 バリアフリー化が進んでいないので官民問わず推進できるよう事業を展開されたい。

第8項 危機管理体制の確立

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
危機管理に対する意識の向上	概ね順調	早急に具体的且つ有効的な事業展開に取り組むべきである。	危機事態の情報収集及び調査、研究	75.0	新たな防災計画の策定が必要である。策定作業を急がれたい。	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理体制の早急な構築が必要である。
			危機事態に対する町民への意識啓発	75.0	災害時想定される対策、対応の教育が必要であり、避難場所設定や集合場所の指定など早急に対応されたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
災害予測対策の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、各施策の実効性を再検証するとともに継続的な取り組みが求められる。	情報受発信体制の強化	81.3	住民に安心感を与えるシステムの構築に向け、情報の受発信、双方向対応が可能なネットワークの研究が進められたい。	・情報収集、テスト、実際発生時に対応される研究が必要である。
			教育、訓練の充実	75.0	施策に対する具体的事務事業として防災訓練以外の実施内容について検討されたい。	・災害発生時における対応を模擬的に実施すべきである。
			災害予測調査の推進	81.3	今後とも事務事業を推進し、支援体制の確立を図られたい。	・常に関係機関との連絡を密にし、災害に備える必要がある。 ・災害時要援護者支援プランを策定、実施したことは評価したい。今後とも最新状態で維持していただきたい。
			機器、資材等の整備、危険個所の解消	75.0	災害対策としての機器、資材等の整備や備蓄が必要である。また、危険個所の解消に向けた取り組みを強化されたい。	・完全に整備し、いざという時に対応すること。 ・災害時の食料備蓄や機器、資材等について各地区センターに配備することが望まれる。 ・危険個所は常に把握しておき対応されたい。
危機管理体制の整備	概ね順調	新たな総合防災計画の策定が政策の実効性確保に欠くことの出来ない喫緊の課題と考えられる。	自主防災組織の育成	81.3	全町的な防災体制との連携が必要であることから、自主防災組織の育成について主体的な取り組みを図られたい。また、地区を細分化した地域での支援体制についても育成支援を講じられたい。	・具体的計画を打ち出し進めるべきである。 ・自主防災組織の育成はまだ進んでいない。
			総合防災体制の整備	81.3	防災計画策定の中で総合防災体制の明確化を図り、具体的手法を通して体制の実効性が担保されるよう早急に取り組まれたい。	・総合防災体制を明確にし、町民に情報提供すべき。また、日常の訓練も必要である。 ・各地区においても自主防災組織の整備に取り組んでいるが、基本は「防災計画」に基づくものでなければならない。計画づくりに早急に取り組んでいただきたい。
			広域防災体制の充実	81.3	交流団体との広域防災体制の充実に向けた交流研修を継続的に進めるとともに、広域消防の設置を前提に、県内、置賜管内における広域防災体制の充実に向けた取り組みを講じられたい。	・町田市、ネット川西もいいが、県内市町との協定が重要である。
防災拠点としての庁舎及び公共施設の機能調査	概ね順調	対象施設の安全性確保に向け事業推進を図られたい。	公共施設の耐震調査と整備	81.3	教育施設の取り組みを一層強化するとともに、庁舎等の施設に対する取り組みについて事務事業として設定されたい。	・公共諸施設及び学校等に対する調査整備が必要である。 ・小松小学校以外の校舎の安全性も早急に確保すべきである。

第9項 防犯・交通安全の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活安全に向けた体制整備	概ね順調	生活安全条例に基づく継続的な取り組みが求められる。	関係機関との連携、強化	87.5	施策としては概ね適切であり、より一層の機能強化を図りたい。	
			地域ぐるみの防犯体制づくり	81.3	施策としては概ね適切であり、より一層の展開を図りたい。	
防犯活動の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、防犯活動に係わる町内での活動の全体像を把握し町民の意識高揚を期待できる事業展開が必要である。今後とも継続的な取り組みが求められる。	防犯意識の高揚	81.3	施策としては、住民全体の意識高揚に向けた事務事業を図りたい。	
			防犯設備の整備促進	87.5	施策の有効性を高めるためにも、維持管理体制のあり方を検討されたい。	
交通安全活動の推進	概ね順調	政策推進を図るうえで、さらなる安全性の確保に向け事業継続を図られたい。今後とも継続的な取り組みが求められる。	関係機関との連携、強化	93.8	積極的な取り組みを行うことで施策の有効性を担保されたい。	
			交通安全教育の推進	87.5	施策としては、関係機関・団体との連携を図り、より一層の展開を図られたい。	
			交通安全施設の整備促進	87.5	施策に対する事務事業の効果をあげるため、新たな安全対策を検討されたい。	

第10項 消防・救急体制の強化

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
消防体制の充実	概ね順調	構成する施策は有効性を確保しているが、消防団再編、施設設備の整備等課題解決に有効な事業展開を図られたい。	火災予防の推進	81.3	各事務事業を通して施策実現に向けた取組みを一層強化されたい。	・高齢、弱者に対する指導を充分にする必要がある。各事業所等にも。
			消防、防火施設の整備	81.3	消防力整備計画に基づき、諸状況を勘案して継続的に進められたい。	
			消防活動の充実	81.3	施策実現に向け、継続的に取り組まれたい。	
			消防団の再編と自主防災組織との連携	81.3	消防団の再編への継続的な取組みとあわせて、自主防災組織との一層の連携強化を図られたい。	・町中心に自主防災組織があるが活動していない。消防団員の募集を全町民に説明し、団員確保に努めるべきである。
救急体制の強化	概ね順調	政策推進を図るうえで、今後とも継続的な取組みが求められる。	応急活動の推進	87.5	施策にととしては概ね適切であり、より一層の展開を図られたい。	
			メディカルコントロール体制の強化	87.5	施策に対する事務事業の充実を図られたい。	
消防、救急体制の広域連携等の調査研究	概ね順調	県の消防広域化計画に基づく各自治体の取組みの課程であるが更なる進度の加速が望まれる。	広域連携等の調査、研究	81.3	具体的推進体制の下、置賜広域消防の設置に向けた取組みを着実に進められたい。	

第3節 住み良い環境を創り次世代につなげるまちをつくる

第1項 計画的な土地利用の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
歴史や文化など地域資源を活用した中心市街地づくりの推進	課題あり	政策に対し施策が多方面に渡っており、施策の整理統合が必要である。	町民と行政の協働による街づくり推進体制の構築	81.3	施策の整理統合をすべきと考えるため、今回の施策評価に意見は付さない。	
			街づくりデザインの確立	68.8	同上	
			中心市街地の賑わいづくりの支援	62.5	同上	
			羽前小松駅の多角的利活用の推進	56.3	同上	
			都市計画の見直し	62.5	同上	
ダリヤ園、内山沢一帯の土地利用の構築	課題あり	政策実現するための施策が動いておらず、効果が見えない。	ふれあいの丘の整備	56.3	事務事業の明確化が急務であると考え	
			協働の杜の創造	62.5	管理体制の充実を図るべきである。	
下小松古墳群周辺の土地利用の構築	課題あり	政策推進を図るため、施策及び事務事業の設定が必要である。	古墳、里山、山野草(植生)を活かした憩いと学習の丘の整備	62.5	学習の丘整備に向けた事務事業の設定について検討を要する。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
公立置賜総合病院周辺の土地利用の構築	概ね順調	町としての姿勢が問われることから、地区計画との整合性を早急に構築すべきである。	広域的視点に立った土地利用の推進	68.8	道路整備計画と連動した土地利用計画の策定を明確にする必要がある。	
			医療、住宅、商業が融合したまちづくりの推進	75.0	行政・地域が連携し土地利用計画を早急に策定することが急務である。	
町内各地区の特性を生かした土地利用の推進	課題あり	各地区の地域デザインとコンセプトをつなぐための方策を提示すべきである。	地域資源の発掘と地域デザインの確立	68.8	コミュニティセンター移行後の行政支援策が必要である。	
			相互連携による土地利用の推進	56.3	施策と事務事業が整合性を欠いている。	
土地利用の適正管理と地籍調査の推進	概ね順調	施策の構成内容は有効であり、更なる前進に期待する。	川西町国土利用計画に基づく土地利用の適正な管理運営	68.8	今後も、法に基づいた適正な管理を執行すべきと考える。	
			地籍調査の推進	68.8	地籍調査事業は、今後とも進めるべきであり、前進に期待する。	

第2項 交通基盤の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
道路交通基盤の整備とネットワーク化の促進	概ね順調	進捗状況が低いとため、国、県への一層の働きかけが重要である。	幹線ネットワークとしての縦軸と横軸の整備促進	68.8	花丘町下小松線整備事業の推進により、南北縦軸の整備は進んでいると考える。今後主要地方道高畠川西線の整備の推進を図るべきである。	国、県に対し、優先順位を上げる働きかけを強く行うべきである。
			幹線の結節による広域ネットワーク化	68.8	幹線ネットワークの整備にあわせ、全町民の利便性を確保するため、各道路整備事業を進めるべきである。	国、県に対し、優先順位を上げる働きかけを強く行うべきである。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活道路等の整備促進	概ね順調	町道整備計画に基づく整備が重要と考える。	町内道路の整備	75.0	町道整備計画に基づいた、優先順位を明確にすべきである。	町民等しく利便性が確保される整備を図るべきである。
			安全施設の整備促進	75.0	今後も、適正な整備を進めていく必要がある。	
			維持管理体制の構築	75.0	多種多様な体制づくり（住民参加型等）を検討すべきと考える。	総合的な事業化が必要と考える。

第3項 生活交通の確保

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
町民の視点に立った生活交通システムの構築	概ね順調	高齢化社会における諸問題に対しての一つの対処策として大きな一歩と考える。 利用者、利用率を把握して満足度の高い交通システムにすべきである。	デマンド型乗合交通システムの構築	75.0	利用者の声、利用率を調査し、町民利用の満足度を増す、工夫を必要とする。	
鉄道の利用拡大の促進	概ね順調	関係機関連携のもと施策効果を上げる努力が必要である。	米坂線及びフラワー長井線の利用拡大	62.5	関係機関との連携をはかり、町民のさらなる利用拡大をはかられたい。	
			フラワー長井線を支える仕組みづくり支援	62.5	根本的な支援策が見出しにくい状況であり、一層の事務事業の工夫が必要である。イベント支援する体制の構築必要。	

第4項 高度情報基盤の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高度情報化に向けた環境整備と人づくりの推進	順調		地域情報基盤の整備促進	87.5	具体的進行管理を含め推進していく必要がある。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
高度情報基盤を活用した地域情報の受発信と多面的な活用の推進	課題あり	政策促進を図るため、複合的な事務事業の設定が必要である。	情報ネットワークの形成	81.3	運用上の利便性を向上させる必要がある。	
			ネットワークの加入促進と相互利活用の推進	87.5	基盤整備を進め、利活用について見直していく必要がある。	

第5項 生活環境の整備

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
生活排水対策の推進	概ね順調	助成のあり方や要望に応えられる仕組みづくりを行うべきである。	公共下水道の計画的な整備	93.8	今後も財政状況等を勘案し、計画的に事業を推進すべきである。	
			合併処理浄化槽の設置促進	81.3	今後も財政状況等を勘案し、計画的に事業を推進すべきである。	住民の要望に応えられる仕組みづくりが必要である。
			公共下水道、農業集落排水施設の利用促進	81.3	利子補給制度の活用を促進し、未接続世帯の計画的な加入の推進を図るべきである。	
			河川、水路の美化、浄化活動の促進	75.0	市街地排水の改善、浄化活動に向けた取り組み指針の明確化が必要である。	
安定した水道の供給	概ね順調	政策推進を図るため、水道事業の経営改善及び広域化を進める必要がある。	水道施設の計画的な整備と維持管理の推進	87.5	有収率の向上、経営の健全化が急務である。	
			水道業務の広域化、共同化の調査、研究	75.0	具体的取り組みと、広域協議が必要である。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
住環境の整備	課題あり	政策推進を図るため、マスタープランの制定が急務である。	地域住宅計画の策定	68.8	早急な地域住宅計画が必要である。	
			潤いのある市街地形成の検討	68.8	事務事業が整合性を欠いており、再整理が必要である。	
克雪及び利雪の推進	概ね順調	雪冷房以外に政策推進を図る事務事業の設定を行うべきである。	除雪、排雪体制の構築と防雪、融雪対策の促進	81.3	除雪計画に基づく、計画的な除雪の執行を期待する。	歩道除雪・交差点除雪の排雪体制の見直しを行うべきである。
			雪の有効利用	81.3	雪冷房システム以外の施策の検討が必要である。	

第6項 環境の保全

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地球環境の保全	概ね順調	町民に対し、PRの方法を工夫し、わかりやすい表現（具体例を示し）で情報を提供し、政策の推進に努めるべきである。第6項「環境の保全」に係る政策全体の構成について、再考する必要がある。	省資源、省エネルギーの推進	81.3	環境基本計画との連動が不可欠であり、町民に対し、更なるピーアールを行うべきである。	
			環境マネジメントシステムの推進	75.0	町民が身近な問題として、捉えておらず今後、町民に向け環境マネジメントシステムISO14001の情報発信を行うべきである。	
環境教育の推進	順調		環境教育の推進	81.3	住民を巻き込んださらなる事務事業の工夫が必要である。	
			団体、人材の育成	75.0	関係団体への継続的支援をする必要がある。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
良好な環境保全と次世代への継承	概ね順調	施策の構成中「快適な生活環境の創造」は政策目的と合致していないと考える。また、構成する事務事業についても再構築すべきである。	ごみの減量化の推進	87.5	町民と行政が共通の認識を持ち、年度別数値目標を掲げ、段階的な事業の推進が必要である。	
			豊かな自然環境の保全	81.3	町民と行政が共通の認識を持ち、事業を推進すべきである。	
			快適な生活環境の創造	50.0	施策にあった事務事業を構築すべきである。	
新エネルギーの調査研究と利活用の推進	概ね順調	雪以外の利活用可能なエネルギーについて調査研究し、実践可能かどうか判断を明確にする必要がある。	自然エネルギーの利活用	81.3	雪利活用による農作物の保存調査事業の検討をする必要がある。	
			リサイクルエネルギーの利活用	81.3	バイオマスエネルギーの普及利用に向けた事務事業検討が必要である。	
			クリーンエネルギーの利活用	62.5	利活用及び実現性を、行政として判断を早急に行うか検討する必要がある。	

第4節 人と地域が共にかがやくまちをつくる

第1項 ダリヤのまちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
ダリヤ(花)を育み、町を愛でるまちづくりの推進	概ね順調	政策に対する十分な住民理解が得られるよう今後の事業展開に期待する。	(仮)花づくり銀行の創設	75.0	施策としては概ね適切である。平成21年度創設に向け取り組んだことは評価できる。	・ダリヤの町川西をPRするには大変良い施策であると思われるが、シルバー人材センター委託するのは良いが、栽培技術、栽培管理等の能力も含んだ人材に配慮すべきである。
			花いっぱい運動の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、さらに町民参加が得られるよう図られたい。	・各地区交流センター主体で、自治会長、老人クラブ等組織で推進しているが一般町民全体での参加が必要である。
			ダリヤロードの構築	75.0	施策としては効率性に課題があり、具体的な取り組みを展開する必要がある。	・ダリヤ公園までの主道に植栽の拡大を図るべきである。 ・ダリヤロードと名付ける道筋の構想を構築すべきである。
			花による景観づくりの推進	75.0	施策としては効率性に課題があり、構成する事務事業を再検討し実効性のある施策とされたい。	・町を花いっぱいにするのは良いが、実現が難しいと思われる。 ・各地区に桜の植樹を行ってきたがすすくとは育っていない。プロの指導による定期的な農薬散布などの管理が必要。
さくらの丘づくりの推進	概ね順調	事務事業再構築を行い、個々の施策のさらなる推進を図り明確な全体像の見える政策とするべきである。	「協働の杜」の創造	81.3	ダリヤ園、内山沢に絞った「協働の杜」の創造という施策であることから、事務事業についても終点を絞った再構築を図られたい。	・ダリヤ園、内山沢に絞った「協働の杜」づくりであるが、場所的にせまく町民が杜として集まるかが問題である。
			地区ごとのさくらの名所、丘づくりの推進	81.3	施策としては概ね適切であり、今後一層の維持管理体制の確立について取り組まれない。	・ボランティア等の見回りだけで栽植が成功しない。 ・川西町の土壌に桜が適しているのか疑問を感じる。

第2項 文化まちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別評価
川西文化の次世代への継承	課題あり	町民の文化財保護意識の向上、文化財の保護・整備、町内外への情報発信等、これらの課題を網羅する事務事業の再設定を行い、今後とも継続的かつ積極的な取り組みが求められる。	歴史的、自然的文化財の調査、保護及び学習プログラムの提	68.8	施策としては、適合性、効率性に課題がある。町民の関心が高まるような事務事業を設定されたい。	・文化財に対する一般町民の興味は希薄である。自分のルーツを探る研修会などを企画しながら興味を持ってもらうよう事業展開してもらいたい。大河ドラマのような物語が必要。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別評価
			地域文化の継承と活用	68.8	施策に対する事務事業の設定及び進捗が遅れているような状況にあり、事務事業の再構築を講じられたい。	・次世代の町民のためにも継続が大事。
			下小松古墳群を核とする憩いと学習の丘の整備	68.8	施策としては、適合性、効率性に課題がある。事務事業の設定を検討されたい。	・下小松古墳群をどう生かすか企画がほしい。
芸術文化の発信と川西文化の創造	概ね順調	政策推進のため、各拠点のさらなる有効利用、団体・人材育成を推進し継続的な取り組みが求められる。拠点施設の有効活用に関しても積極的な提言の必要がある。	人材、団体の育成支援	75.0	施策としては概ね適切であり、支援体制の一層の充実を期待したい。	
			活動の場、発表機会の創出	75.0	施策としては概ね適切であり、支援体制の一層の充実を期待したい。	
			フレンドリープラザの充実	81.3	施策としては概ね適切であり、今後の進展を期待したい。	
			遅筆堂文庫の充実と利活用の推進	81.3	施策としては概ね適切であり、今後の進展を期待したい。	
			町立図書館の充実	81.3	施策としては概ね適切であり、今後の進展を期待したい。	

第3項 地域分権社会の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域コミュニティの再構築	概ね順調	今後とも地域への支援を継続し積極的な取り組みが求められる。	地域自治再構築への支援	81.3	施策としては概ね適切である。役場職員についても地区協議会への積極的な参加を要望する。	・各地区交流センターがスタートしたが、その中で担当外の役場職員が地域にどう関わっていくのか、庁舎内での議論が必要。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
地域づくりの推進	概ね順調	政策推進を図るため、町民の理解の向上、実効的な支援制度を実施し継続的な取り組みが求められる。	地区ごとのまちづくり計画（地区計画）の策定促進	81.3	施策としては概ね適切であるが、具体的事業に向けて役割分担等の明確化を図られたい。	
			地域自立支援制度の確立・導入	81.3	施策としては概ね適切であるが、実効的な支援制度を実施し継続的な取り組みを図られたい。	
			地域づくりの核となる「人づくり」や地域実践活動の支援	75.0	施策としては効率性に課題があり、設定事業の再構築に向けて検討されたい。	
地域の宝を生かす活動の推進	課題あり	今後とも継続的な取り組みが求められるが、施策としては、適合性、効率性に課題がある。全体計画を作成し事務事業を検討すべきである。	地域（人、物、歴史）を知る学習活動の促進	68.8	施策としては、適合性、効率性に課題がある。全体計画を作成し事務事業を検討すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・川西町史を活用すべき。 ・プロフェッショナルな人を確保すべき。
			宝を磨くプログラムの実施	68.8	施策としては、適合性、効率性に課題がある。具体的な事務事業を検討すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・磨く宝が見つかっていない。 ・プロフェッショナルな人を確保すべき。

第4項 交流の拡大

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
交流基盤の構築	概ね順調	施策の実効性を高めるため、拠点整備・ネットワークの確立・情報提供システムの再構築を図るとともに事業の進捗度にも配慮されたい。	交流拠点の機能充実	68.8	施策として効率性に課題がある。「ふれあいの丘、であいの丘、憩いと学習の丘」を明確にし、実施の方向性で取り組むことが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいの丘、であいの丘をどこに定めるかが、明確でなく町のどこに設定するか具体的にすべき。 ・内部評価のふれあいの丘が明確化されておらず事務事業が違うのではないか。
			交流資源の充実、ネットワーク化	81.3	施策として概ね適切であり、今後更なる充実を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源は、調査から始めるべき。
			情報提供システムの構築	81.3	施策として概ね適切であり、今後更なる充実を図られたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信により川西ファンを拡大すべき。
地域間交流、国際交流の推進	概ね順調	民間レベルでの交流事業を含め現況を精査し、交流の主体・メニュー・対象の全体像を明確にし政策推進を図られたい。	各種交流事業の促進	81.3	施策としては概ね適切であるが、事務事業の構築を図られたい。	
			自治体間、民間の交流連携の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、事務事業の設定について見直しが必要である。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			自治体間、民間の交流連携の推進	75.0	施策としては効率性に課題があり、事務事業の一層の強化を図りたい。	
			国際交流の推進	81.3	施策としては概ね適切であるが、町民主体の国際交流協会の組織化を図りたい。	
交流人材の育成と川西ファンの拡大	課題あり	構成施策に適合性、効率性の課題がある。事務事業を再検討し実効性のあるものとする必要がある。	交流人材の育成	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。人材バンクの再整理・再構築に向け取り組まれない。	・新たな人材バンク登録の募集必要。機能活用出来る対応すべき。 ・交流人材とは町内に限らず県内、国内に発信できる人を育成するということであるが、育成するなどということはおこがましい話かもしれない。既にそういう人は町内外で活躍しており、「交流人材の育成」ではなく「交流人材の活用」なのかもしれない。
			川西ファンの拡大	68.8	施策として適合性、効率性に課題がある。事務事業を再検討し実効性のあるものとされたい。	・都会には各家庭から行っているのに、其の方面からのPRが大切と思う。話題になるほどPRすべき。 ・東京川西会だけに頼る事業ではなく、全国に広げてファンを獲得する手法を考えるべき。

第5項 教育環境の整備・充実

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
教育内容の充実	概ね順調	政策推進を図るため、「地域の特色」「新たな社会」などの文言の意義を反映した合目的性の認められる事業展開を図りたい。	地域の特色を活かした教育の推進	81.3	施策として概ね適切であり、今後更なる充実を図りたい。	
			新たな社会に対応した学習体制の充実	75.0	施策として適合性に課題があり、事務事業が不十分であるため新たな事業を付加するよう検討されたい。	
			教職員研修、指導体制の充実	87.5	施策として概ね適切であり、今後更なる事務事業の推進を図りたい。	
教育環境の充実	概ね順調	学区再編による教育環境の変化を精査し、併せて長期的な施設整備も勘案した総合的な政策推進を図りたい。	学習効果を勘案した学区の再編	81.3	施策としては効率性に課題があり、小学校の方向性を明確にしていく必要がある。	・中学校が23年統合となるが、統合の合理性を町民から理解を得ること。小学校統合を出来るだけ長引くことなく実施することが望ましい。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			学校給食の効率的、効果的運営	81.3	施策としては概ね適切であるが、学校給食の協議会を設置し進められたい。	・統合による給食の実施について十分な討議がなされ学校や父兄が大変良かったと言われるようにしてもらいたい。 ・単独調理校方式化または親子方式化どちらの方式でやるのか十分に検討されたい。
			施設の計画的な整備	81.3	施策としては効率性に課題があり、修繕計画に基づき、継続的に対応されたい。	・施設の維持管理計画に基づき、緊迫財政の中であっても安全上必ず実施すべきである。 ・他の小学校の耐震度は？統合中学校のスクールバス経路は？

第6項 生命の教育の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
家庭教育力の向上	概ね順調	今後とも継続的な取り組みが求められる。	教育連携体制の構築	75.0	施策に対する事業の体系化と実施事業の再整理が必要である。	
			共育環境づくりの推進	81.3	施策に対する事業の体系化と実施事業の再整理が必要である。施策に対する事業の体系化と実施事業の再整理が必要である。	
			地域子育ての意識づくりの推進	87.5	施策に対する事業の体系化と実施事業の再整理が必要である。	
こころの教育の推進	概ね順調	今後とも継続的な取り組みが求められる。	性の教育、いじめ、不登校への対応	93.8	施策としては概ね有効であるが、施策に対応する事務事業の設定を行い、広範囲での対応策を提示する必要がある。	
			生き抜く力の育成	93.8	施策としては概ね有効であるが、社会力を高める教育プログラムの推進に係る事務事業の設定を図られたい。	
			食育教育の充実	87.5	施策としては概ね有効であるが、食育に対する総合的な事務事業の設定が必要である。	

第7項 生涯学習・生涯スポーツの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
学習推進体制の充実	課題あり	現行施策には世代間交流、情報提供の視線が不足である。政策推進を図るため施策の再検討が必要である。	施設機能の充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、修繕計画による年次的整備とともに、施設機能としての中央公民館のあり方について明確化されたい。	・修繕計画による整備確実に中央公民館・小松地区交流センターの問題検討すべき。
			情報提供の促進	68.8	施策としては適合性、効率性に課題があり、一体的な情報提供システムを講じられたい。	・出前講座等の内容が多くあるが町民からの申し込みがあまりないということは、その魅力がないのではないか。生涯学習ガイド等の作成がなされていない。 ・だれもが主体的に学習できる環境にはなっていない。
			交流による人づくりの推進	68.8	施策としては適合性、効率性に課題があり、事務事業を精査し再構築されたい。	・世代間交流をリードする人物の選定と住民が進んで参加できる体制づくりPRが必要。 ・相変わらず成人式が主な事業では心もとない。
主体的な学習活動への支援	概ね順調	政策推進を図るため、学習講座のあり方や支援体制の再検討を実施し、さらに継続的な取り組みが求められる。	学習講座の提供	81.3	施策としては概ね有効であるが、生涯学習講座等の見直しを図られたい。	
			地域活動への支援	81.3	施策としては概ね有効であるが、支援のあり方について再構築を図られたい。	
体力づくりの推進	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取り組みが必要であるが、関連する政策との統一・整合性がみられない。施策の再検討が必要である。	町民一人一体力づくりの定着	81.3	施策としては概ね有効であるが、運動機会の創出に対する事務事業の明確化を図られたい。	
			スポーツ機会の創出	81.3	施策としては概ね有効であるが、事務事業を整理し、再構築を図られたい。	
競技力の向上	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取り組みが求められる。	指導体制の充実	81.3	施策としては概ね有効であるが、指導者育成プログラム設定等の事務事業の再構築を図られたい。	

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			ホッケー競技の振興	81.3	施策としては概ね有効であるが、競技人口の拡大に向けた事務事業の設定を図られたい。	
スポーツ環境の充実	概ね順調	利用者の利便性・安全性が最優先であり、体的な維持管理計画の提示、継続的な取り組みが必要である。	施設管理、運営体制の充実	87.5	施策としては概ね適切であり、今後も継続的な運用を期待したい。	
			施設の整備、充実	81.3	施策としては概ね適切であるが、維持管理方針を明確化しておく必要がある。	

第8項 男女共同参画社会の推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
社会参加機会の拡大	概ね順調	男女共同参画の意義を再認識し、更なる政策推進を図られたい。	女性の活躍の場の創出	75.0	施策としては効率性に課題があり、施策に対する事務事業が不十分である。	
			政策、方針決定への男女共同参画の推進	81.3	施策としては効率性に課題があり、施策に対する事務事業が不十分である。	
働くための環境整備	概ね順調	政策推進を図るため、今後とも継続的な取り組みが求められる。	安心して子育てできる環境の整備	81.3	施策としては概ね適切であるが、子育て支援センターの位置づけを明確にし、新たな展開を構築されたい。	・子育て支援センターの位置づけが明らかでない。
			女性の能力が発揮しやすい環境の整備	75.0	施策としては効率性に課題があり、女性も能力が発揮出来るよう事務事業を展開する必要がある。	・女性の能力が発揮する場所が無いので、企業等で受け入れる意思が望まれる。 ・女性の能力とは何を指すのか不明確である。
意識啓発及び推進体制の確立	概ね順調	男女共同参画の意義を再認識し、さらに実効性の高い施策を検討する必要がある。	男女共同参画意識の醸成	81.3	施策としては概ね適切であるが、意識向上を図るための事務事業の設定が必要である。	
			男女共同参画社会実現のための推進体制の確立	81.3	施策としては概ね適切であるが、推進体制の強化を図られたい。	

第9項 自主・自律のまちづくりの推進

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
協働のまちづくりの推進	概ね順調	町民の理解を深め十分な効果を上げるため、今後より積極的な取り組みと施策の再検討が必要である。	川西町まちづくり基本条例の啓蒙	81.3	施策としては概ね適切であるが、本条例がまちづくりの根幹であることから町民に対して啓蒙を図られたい。	
			情報の共有化、広報・広聴活動の推進	75.0	まちづくりを進める基盤となる施策であることから、今後一層の情報の共有化を図られたい。	
			NPO、ボランティア団体等の育成支援	81.3	施策としては概ね適切であるが、NPO法人とのネットワーク体制の確立を図られたい。	
行政経営システムの確立（役場改革）	概ね順調	本政策の意義は浸透しつつあるが、今後も常に点検評価を繰り返しながら、改善姿勢をもって取り組む必要がある。	川西町集中改革プランの実施	81.3	施策としては概ね適切であるが、具体的な取り組みについて精査していくことが求められる。	・現在より一層の発展させるために改革が大切であり、計画にばらつきなく取り組むべきである。
			行政評価システムの導入	81.3	施策としては概ね適切であり、行政改善に繋がるよう活用していくことが求められる。	・システム取り入れが、より一層実施評価が行政改善につながるようすべき。
			環境マネジメントシステムの推進	81.3	施策としては概ね適切であり、行政システムを高めるために、より一層活用していくことが求められる。	・推進することより行政システムの効果を高めることが望ましい。
			職員の資質向上	81.3	施策としては概ね適切であるが、研修等を通して全体のスキルアップを図ることが望まれる。	・町民とともに町発展を考える人材の育成が大切だと思う。 ・いくら研修を受けても、自ら求めるものでないかぎり身につかない。職員一人ひとりが自分が到達したい目標を定め、それに向けてスキルアップする制度が必要。
			庁舎施設設備改修	62.5	施策としては適合性、効率性に課題があり、庁舎施設の改善計画が求められる。	・町の中心・行政の中心の本庁舎の建築がなされること期待したい。 ・当面合併しないことが決まれば庁舎新築に向けて取り組まなければならない。

政策名	評価結果	評価の理由	施策名	評価点数	評価の理由	個別意見
			戸籍電算化システム 導入事業	93.8	施策としては概ね適切であり、今後も 的確な運用を期待したい。	・電算システムを最大限度活用し町民の サービスに努められたい。
広域連携の推進	概ね順調	両施策ともに調査研究結果の情報開 示を念頭に置き、町民におよぶ利益・ 不利益を十分に説明する必要があり、 今後も慎重且つ積極的に取り組まれた い。	行政サービスの広域 化と広域処理	81.3	施策としては概ね適切である。	・広域化により住民に不利になることが ない様に、十分に課題を検討しながら取 り進めるべきである。
			市町村合併に関する 調査、研究	81.3	施策としては概ね適切であるが、合併 の効果や不利益については公表する必要 がある。	・合併には良いところ、良くないところ があると思われる。町民にその点を明確 にし、町民全体の意志により将来に向け た議論を進めるべきであり、一部の動弁 での指導はつつしむべきである。